

イチゴの促成栽培におけるハダニ類の天敵カブリダニ類の放飼方法					
[要約] 促成栽培イチゴにおいて、捕食性天敵のチリカブリダニを10月下旬～11月上旬、11月下旬～12月上旬および1月下旬～2月上旬の3回、1回につき10a当たり2,000頭を放飼することで、 <u>ハダニ類</u> の発生を4月まで低く抑制することができる。					
担当部署	生産環境研究所・病害虫部・野菜花き病害虫研究室			連絡先	092-924-2938
対象作物	野菜	専門項目	病害虫	成果分類	新技術

[背景・ねらい]

近年、安全な農作物に対する需要が高まるとともに、薬剤抵抗性害虫や耐性菌の出現により、農薬に依存した従来の防除方法の見直しが求められている。そこで、促成栽培イチゴでの生物的防除資材を利用した総合的病害虫防除技術を確立する一環として、ハダニ類の捕食性天敵、カブリダニ類の有効な放飼方法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. チリカブリダニを10月下旬、11月下旬及び2月上旬に、1回につき2,000頭/10a放飼すると、ハダニ類の密度と被害を4月まで低く抑制することができる(表1～表3の下4段)。
2. チリカブリダニを2月上旬から2～3回、1回につき2,000頭/10a放飼した場合、ハダニ類に対する密度抑制効果は低い(表1～表3の上2段)。
3. 以上の結果を踏まえて、「促成栽培イチゴにおけるチリカブリダニ利用マニュアル」を作成した(別紙)。

[成果の活用面・留意点]

1. チリカブリダニを利用する場合には、本天敵に影響の少ない農薬を組み合わせる(マニュアル参照)。
2. 5月まで収穫する作型では、2月下旬～3月上旬にチリカブリダニを追加放飼する。
3. チリカブリダニの価格は、1回の放飼(2,000頭)当たり約5,500円である。

[ 具体的データ ]

表1 現地圃場でのハダニ類に対する防除実績（筑後市）

試験圃場	天敵放飼					試験期間中の 殺ダニ剤散布
	10下	11下	2上	2下	3上	
A農家圃場1	-	-	チリ	チリ	チリ	3月中旬
B農家圃場1	-	-	チリ	チリ	-	10月下旬、3月下旬
B農家圃場2	チリ	チリ	チリ	-	-	なし
C農家圃場1	チリ	チリ	チリ	-	-	なし

注) 1. チリ：チリカブリダニ  
2. 1回につき2,000頭/10aを圃場に均一に放飼した。

表2 カブリダニ類の放飼圃場におけるハダニ類の密度推移

試験圃場	ハダニ類密度（頭/複葉）										
	10下	11下	12下	1中	1下	2中	2下	3中	3下	4中	4下
A農家圃場1	-	-	-	-	0.4	2.6	3.5	3.7	7.4	7.0	-
B農家圃場1	0.0	0.0	2.4	1.0	5.0	1.0	7.6	10.1	8.3	6.7	-
B農家圃場2	0.0	0.0	0.0	0.01	0.03	0.8	1.3	0.2	0.6	1.3	-
C農家圃場1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.01	0.01	0.0	0.0	0.01	0.0	0.02

表3 カブリダニ類の放飼圃場におけるハダニ類による被害の推移

試験圃場	ハダニ類による被害（発生複葉率）							クモの巣状態株の発生 （4月中旬時点）
	10下	11下	12下	1下	2下	3下	4中	
A農家圃場1	-	-	-	11.3	23.8	27.5	-	圃場の約20%
B農家圃場1	0.0	0.0	14.0	22.5	16.3	37.5	50.0	" 約40%
B農家圃場2	0.0	0.0	0.0	1.3	2.5	3.8	26.3	" 約3%
C農家圃場1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	1.3	" 0%

注) 多発した株では、ハダニ類が吐く糸によって、クモの巣を張った様な状態になる。

[ その他 ]

研究課題名：天敵昆虫類を利用した総合的害虫防除実用化技術の開発

予算区分：県特

研究期間：平成12年（平成11～14年）

研究担当者：嶽本弘之・山村裕一郎